

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 1月 28日
事業所名	グループホーム悠縁 1階ユニット
事業所番号	2375601594
記入者名	職名 介護 氏名 日置 陽子
連絡先電話番号	0567-24-7377

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>各委員会担当スタッフを決め、会議を行い日々の生活の中で問題点等を取り上げ話し合い、全職員・管理者に報告する。月一回の会議を聞いたり職員への連絡事項をノートに記入し申し送る。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>季節、日本の伝統的行事等、事業所の中でできる限り、利用者に味わってもらえるよう。事業所としての行事として行なっている。広報の作成や急な連絡事項は手紙を出している。</p>	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>あいさつ「悠縁です。お世話になっています」等、地域の方に支えてもらっていることをアピールし、感謝の気持ちをもつ。近隣のお店への外出レクや施設の行事（夏祭り）に立ち寄っていただけるようチラシを作成し出したり配布し声をかけている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>敬老会、草取り、ごみ拾い等、積極的に参加している。</p>	<p>できる限り地域の行事に積極的に参加する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員・委員会担当を決めよりよい事業所の力を活かした地域貢献ができるような話し合いを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価について職員同志が、どう改善すればよいのか、一人一人の考え方を大切にしながら、意見交換を行なっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年1月に第一回目の運営推進会議を開催した。事業所から社長以下6名、地域の民生委員、行政の方等、参加して頂き、話し合った。地域にとけこんでいけるような貴重なご意見も頂き、第2回は3月に予定している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所に行ったりした際、担当者の方へ声を掛け現在の利用状況等の情報交換を行なっています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・事務職員の指導助言のもと、個々の必要性を話し合い、活用できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会をもうけ身体的虐待、言葉による虐待がないか、又、一人一人の面談の場を持ち防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に説明を行なっている。また疑問点が出た場合すぐに対応し説明を行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見に耳を傾け、できないことに対しては管理者に対応してもらったり、できる限り満足して頂けるようにしている。又、職員間で改善できるよう話し合ったり、記録を取る。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来た時に日頃の様子、健康状態、暮らしぶりをお伝えしている。又、広報でもお知らせしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は職員や管理者ができる限り、早めに対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会担当を決め、会議を行い、管理者に報告書を提出し意見をあおいだり、全職員に報告している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者に事故等ないように別フロアの職員の見守り、応援など柔軟な対応を行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理解できる利用者にはその事を伝えて理解して頂いている。	○	利用者が不安にならないようになじみの職員ができる限り関わり合いが持てるようにしていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会がある。 (個々のスキルアップに対する施設内の研修)		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な訪問する事でケアマネ等と情報交換をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士、声をかけあい休憩時間を持てるようにしている。 職員同士、職場を離れた場所での関わる時間を持つ(忘年会の実施)		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価や日頃の勤務時に現場へ入って個々の職場への助言・指導をしたり、問題がないかを随時聞いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人との会話を聞き取り、把握できるように取り組んでいる。 本人のペースに合わせて傾聴をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	かぞくと密に連絡を取り、よく聴くように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族ができること、事業所ができることなど話し合うよう努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学や話し合いを行い対応できるように実施している。 細かい事も情報としてきちんとアセスメントしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	傾聴を第一に考え利用者に質問したり共感する中で利用者の生きてきた時間を尊敬する気持ちを持ち一緒に歌をうたったり話をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来た時等に普段の利用者の様子、どのような接し方をしているか等、話をして、その会話の中から支援の仕方を見つけ出している。(生活歴など)		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の話やしぐさ、動作を観察し、よりよい関係の向けて支援する。	○	玄関で帰ってしまう家族に対して、もっと積極的に声掛けてなるべく本人に会ってもらえるように働きかけていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の名前を言う事で本人の中の記憶を持続できるようにしている。	○	思いで深い場所に出かけられる機会を作る。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の人格や性格を把握し、スタッフが仲立ちとなり利用者同士、関わり合う場を持てるようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	スーパーや道で会った際は、あいさつや近況を話す等している。		年賀状や暑中見舞い等を出す。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所として一人一人お思いや暮らし方の希望はできる限り尊重している。利用者の居室などで、ゆっくり話を傾聴する。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、情報を全職員が理解し、利用者に対する尊敬の気持ちを持って利用者に関わっている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員同志が理解、把握できるよう詳細をメモ書きにして、全職員が目を通してしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャー・職員・ナースが話し合いリハビリ・レクレーション等取り組んでいる。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一日の生活の流れ・利用者の状態を見極め、そのつど対応している。期間に応じて日々の情報をもとに見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間に分けて個人カルテに記録を記入し、連絡ノートに情報を記入し伝達している。	○	より具体的に記録が残せるよう個々の文章力をつけられるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊等家族の要望に合わせている。要望があった場合はきちんと話を聞き可能な限り支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向・必要性に応じている。事業所として受け入れられるものは積極的に受け入れている	○	まだまだ働きがけが少ないので、広報などを活用して参加できる事やボランティアも要請を増やしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の意見も十分に取り入れ、本人に合ったケアを職員と家族が話し合っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向・必要性に応じて行なっている。包括支援センターとの情報交換をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診をしていただいている医院があることを家族に説明している。 又、受診できる家族に関しては本人の状態を考慮しながら受診してもらっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の医師に対して日々の状況や治療の経過を話し本人が安心して生活できるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	家人通院後の状態対応の仕方を聞き対応している。ナースの指示を一人一人に合った健康管理に努めている。	○	一人一人をよく観察し、異変等もすぐにナースに報告し指示を求め対応していける体制をより強化していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはこちらの受け入れができていることを話し訪問して情報を交換している。退院時の状態を事前に聞き、居室等の配慮に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に安心していただけるよう話し合いを繰り返し、取り組んでいる。又、それらの内容を共有しケアにつなげている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者の体の状態、今後のケアについてナース・上司より話を聞き対応している。 又、かかりつけ医や家族との連絡を細めに行い利用者にとって一番必要なケアを目指している。		家族の意見にも耳を傾け、事業所を家族が一对になり、本人をケアしていけるようにして今後も努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	日々、生活の中での一人一人の習慣、生活でしかわからない事も細かく情報として伝達している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録記入や閲覧は必ず事務所内で行なっている。一人一人の送ってきた人生を尊重・尊敬の思いを持ち関わっている。記録等で名前は頭文字（アルファベット）で記入している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意志を尊重しできるだけ自分で決定していただけるよう選択肢を与えたりすることで思いや希望を表せるようにしている。又、利用者の表情から読みとり声掛けをしている。	○	希望を満たすことにより生きる喜びを味わい、生きることの楽しみにつなげていけるようにしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、その日その時本人が何を望んでいるのか見出しかわるようになっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時入浴後等の手入れをしながら鏡を見て自分自身を見て頂く、月に一回理容師の訪問がある。		本人のおしゃれに対する気持ちを十分受け止め、化粧等の介助をし、身だしなみなど、自分で気づけるようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、簡単な調理、食後の食器の片付け、食器拭きなど安全に十分配慮し十分な見守りの中で行なっている。		手伝ったりして準備をすることで、食べる事への喜び・楽しみを持てるよう積極的に声掛けしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の生活歴・病歴を配慮した上で、お酒など大体決まった時間に一定量提供する等している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、一人一人の排泄のリズムをつかみ、トイレ誘導を行い、オムツの使用を減らしていくよう心掛けている。		排泄の感覚を感じて頂けるよう。時間を見計らって誘導したり、ぬれて気分の悪い事等を知り常に清潔を保持してもらう。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に入浴時間の希望を聞き、できる限り希望の時間に入浴していただく。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせ、日中、リハビリ散歩を行い、夜間は安眠できるよう心掛けている。その時の状況にあわせ、ソファで傾眠して頂いたり、居室で休んでいただく。		日中、傾眠することで、夜間眠れなくなるおそれがある為、リハビリや散歩に出かけ、日中に体を少しでも動かし、夜安眠して頂く。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気晴らしとして散歩やレクリレーションを行なう。頼りにしている。やっていただいたの感謝の気持ちを伝えてりしながら個々にあった力を発揮して頂けるような環境を作っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者は財布を自分で管理している。本人持ちの物（例：歯みがき）に対しては預かり金で購入していることを伝えてある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や季節に合わせ利用者の体調を考慮し、外出したり外出先で買い物・食事したりと喜んでいきます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得ながら、できる限り希望を叶えられるようにしていきたいと考えます。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いて頂き家族に送る。又、字が書けない場合は職員が本人の思いを聞きながら代筆し、家族に伝える。	○	「家族に電話したい」等の利用者の思いをご家族に伝え少しでも利用者の思いを満たされるように努める。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には居室への椅子・お茶の提供・言葉がけ等穏やかに過ごして頂けるように心がけている。（空調調節含む）		繰り返して来て頂けるよう利用者と共に来所していただいたことに感謝の気持ちをお伝えしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ委員会の研修内容を各職員に伝え知識を得、実際にケアに取り入れている。		職員の声掛け「だめですよ」「違います」ではなく「こうしたらどうでしょう」等、職員の提案で利用者自身が考える時間を持てるように取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則、日中開放しているが危険防止・安全優先の為、鍵をかける場合もある。		職員の見守り強化 扉に鈴を付ける等の対応。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常時利用者がどこで何を行なっているか見守りしている。居室の出入りの対し本人に声掛け了解してもらっている。 夜間0‘、3‘巡視を行い見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は所定の場所に保管している。利用者の要望に応じ職員の見守りのもと使用して頂き作業終了後保管場所に片づけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒に関しては居室のベットの位置やフロアでの居場所を一人一人の動きや力に合わせて配慮している。 一人一人の動きを予測して職員が見守っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	おこり得る誤飲などの事故対処方法は上司より指導を受け、フロア会議において職員一人一人に伝えている。ナースから利用者の予測される状態に応じ対応の指導を受けている。	○	一人一人の職員が救命講習を受け知識の向上に努めていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回防災訓練を行なって避難の方法を学んでいる。その際利用者の歩行自立可か否か（要介護）把握し安全かつ円滑に避難できるよう配慮している。	○	ひき続き定期的に訓練を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	現状をかぞくどに話し、事業所としての対応の仕 方を伝えている。又、家族の方の考えも十分に聞 き一緒に良い考えを出している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	体調の変化が見られたら早期にナースに報告す ると共に申し送りノートに記入し職員に伝えてい る。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	個人カルテで服薬リストに目を通し、持病とのか かわりを理解し、利用者に服用して頂く。		服薬忘れないよう、服薬させたスタッフの記名、 利用者の前で声にして、名前・日にちを確認して 間違えのないようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体 を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に起床時水かお茶を提供している。日 中リハビリ運動・腹部マッサージ・腹部を温め る。	○	食物繊維を多く含む食材を食事やおやつの時に提 供していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援 をしている	毎食後口腔ケアを行なっている。義歯の洗浄は一 週間に一度行なう。義歯をはずした後の口腔内の 清潔・義歯みがきの手伝いも行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はチェック表に記入し把握している。 栄養バランスに関してはメニューに従いレシピ通 り調味料の量に気を配っている。		薄い味つけに慣れていない利用者がおいしく摂取 できる味つけ、好き嫌いのある利用者に代替えで きるものを用意し栄養価で補えるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	起床時と食後、帰設後のうがいと手洗い。 インフルエンザ予防接種 マスクの着用 会議の時にプリント配布し知識を得る。 薬の塗布時、手袋着用を行なっている。	○	与えられた情報や知識を的確に把握し対応していく。 職員の自己体調管理に努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・食器・布きん等の殺菌・消毒・冷蔵庫の温度管理 料理の際しっかりと加熱する。		職員の手洗い・消毒を徹底する。 調理から提供までの時間を短くし、細菌の繁殖をおさえる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設入り口の門の近くに畑があり、野菜を作っている。玄関前に花だん・玄関前の扉を開けると利用者の手作りの作品が飾ってある。気軽に上がって頂けるようスリッパが用意しており、靴が着脱しやすい位置に椅子を置いてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室に関して特に衛生に気をつけて清潔にしている。 居間や玄関・トイレには利用者の書いた習字・ちぎり絵が飾ってあり、南側の窓ガラスには季節にあった折り紙で作った飾り物が貼ってある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに置いてあるソファには利用者が並んで座りテレビを見たり会話を楽しむ場所となっている。 又、ウッドデッキに出たり、近くへ行き日なたぼっこをして過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいる様な雰囲気を味わえるように家からの持込ベット・毛布・布団等使い慣れたものを活用している。又、居室内転倒に配慮しその時の身体機能の応じた配置を考え一人一人の状態にあったベットの位置等配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間を決め窓を開ける場所を決め、換気を行なっている。外気との差は暖房器具を使って行なっている。		フロアと居室の換気に交互に行なえるように職員間で話し合い、よりよい方法を見つけていく。又、フロアの冷暖房のつけっ放しに気をつける。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事時のテーブル座席、ソファの座る場所など身体機能を考慮し決定している。便座の高さ、浴槽の深さ、キッチンの高さ等利用者にとって生活しやすい環境設備に取り組んでいる。		階段・手すりを用いリハビリ運動の施行、日々の生活の中でよりよい方法を見つけ出し職員同士の意見交換をしていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には利用者の名前の書いたプレートが貼ってある。トイレの場所にはマークが付き、お風呂場の入り口にはのれんがかかっており理解しやすくなっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階フロア南側にウッドデッキがあり洗濯物や布団を干したり、日なたぼっこ・食事の場・くつろぎの場となっている。又、ウッドデッキから畑の野菜も見ることが出来る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四季折々の行事、季節を感じられる食材を使った料理等、家庭と同じ雰囲気の中を味わえるように努力している。
 一人一人の体調に合わせた食事・生活時間を大切にしている。
 一人一人の生命・事故・けが等想定されると思われることをあげ、日々職員同志の話し合い、意見交換を行いよりよい生活ができるようにしている。
 再利用できる物をできるだけ使い、物の大切さを職員同志、利用者にも伝えている。
 一人一人の身体の状態に応じての機能回復(退院後のケア)、日に日に変わる方を見てできていると実感する。